

ロールケージ

FDJ2・FDJ共通の規格といたしました。2023年初戦から新規格のロールケージが必要になります。今までは、フレームへの取り付けが6ポイント以上になっておりましたがイントルージョンバー（足元保護）左右含みでフレームへの取り付けは8ポイント、取付はボックス溶接のみとし補強としてのロールケージからフレームへの接続は禁止で補強はロールケージのパイプとパイプの間で接続してください。（ボルトジョイントの分解式は使用は2023年から禁止になります）2022年はボルト固定式のロールケージも参加できます。ハーネスバーの溶接による取り付けを強く推奨します。ハーネスバーの材料はメインフープと同じ材料を使用してください。

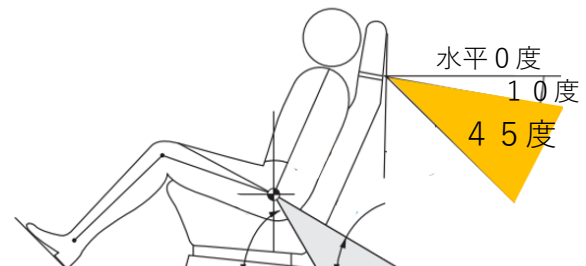
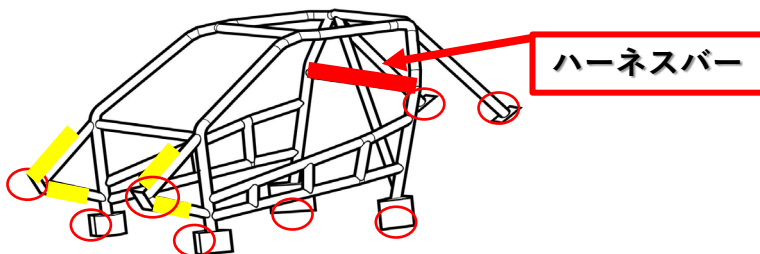
2材料
パイプの規格ですが今まで通りの材質で継ぎ目なし引抜鋼管 38mm×2.5mm以上（メインフープ以外のパイプも 38mm×2.5mm以上すべての部分での肉厚を2.5mmと設定いたします）よって今現在FDJで使用されている車両の 45mm×2.5mmメインフープ以外の部分を40mm×2.0で製作された車両は2023年以降も、今までどうり使用できます。ただし、フレームへの取り付けポイントが、イントルージョン含みで、8ポイントまでなので、余計なバーは外していただきます。なおアンチホイールイントルージョンが必要になります。そして、サイドプロテクション（ドアバー）は、指定の形状の物を取り付けていただきます。

RIGHT HAND DRIVE CONFIGURATION フレームへの取り付けは、上の8ポイントのみです。

この図が基本構成になります。プロペラシャフト保持ループ純正ミッションで、無加工のプロペラシャフトを使用している場合のみ緩和いたします。エンジンミッションを別メーカー（日産にトヨタなど）に、載せ替えてありその際にプロペラシャフトを切断して溶接をし直している場合シンケーシャルミッションに乗せ換えて同時にプロペラシャフトを、社外の物に変更した場合はもしくは、社外のプロペラシャフトに交換した場合は、以下に示す、プロペラシャフト保持ループを取り付けていただきます。プロペラシャフトの前方のユニバーサルジョイントから6インチ（152.4mm）以内の場所にボディにしっかりと固定されたプロペラシャフト保持ループの着用が必要となる（図9参照）。プロペラシャフト保持ループは最低0.25インチ（6.35mm）厚×2インチ（50.8mm）幅の鋼製ストラップ、または0.875インチ（22.225mm）×0.065インチ（1.651mm）厚のパイプで構成され、プロペラシャフトのユニバーサルジョイントの破損時に保持できる様に固定する。（Summit Racing- Part number SUM-G7900 参照）FDJ2は、室内カメラの設置がありません。

これはJAFのベルト取り付けの角度です。FDJ2に関しては、ハーネスバーは強く推奨致します。と同時に、ショルダーハーネスの角度につきましては、シートのショルダーハーネス穴から水平下方向へ45度以内にショルダーハーネスを取り付けて下さい。この場合フレームにアンカーボルトを取り付ける事になると思いますが、その際には、裏側に最低3mmのあて版を当てて補強して、そこにアンカーボルトをナットでしっかり固定して下さい。

取り付け具のボルト、ナットは以下とする。（JIS B0208参照）材料S38C～S45Cまたは同等ネジ呼び名7/16-20UNF-2A/2Bナット有効ネジ高さ10mm以上補強版新たに設置される取り付け点は、以下の補強板により補強すること。設置する場所の車体板形状に一致させること。材質SPHCまたは同等板厚 t = 3.0mm以上大きさ（有効面積）40cm²以上車体への固定は、溶接。（40cm²は、一辺が6.4cmの正方形が40.96cm²です。）



黄色い範囲で指定当板施工し取付

